



2012年9月26日

京都市長 門川大作 様

日本イコモス国内委員会
第14小委員会 主査 荻谷勇雅

日本イコモス国内委員会から京都会館再整備計画に関する見解(2012年9月10日付)を京都市長様あてに送付したところ、京都市から指摘事項に対し真摯に取り組んでいただける旨のコメント(同9月10日付)を頂いたことに感謝申し上げます。

さて、日本イコモス国内委員会に設置した「第14小委員会:リビング・ヘリテージとしての20世紀建築の保存・継承に関する課題検討(京都会館再整備計画に関する検討)」では、これまでISC20C(20世紀遺産に関する国際学術委員会)委員長、京都市在住の専門家及び御市担当者等に、今回の一連の流れを再度確認するとともに、小委員会において議論を重ねました。その結果、10月中旬に開始されるという第一ホール「建物本体の本格的解体」を前に、下記の事項を京都市に質問させていただくこととしました。第一ホール「建物本体の本格的解体」着手前に御回答いただけますよう、お願い申し上げます。

質問事項

- ① 京都市としてどのように京都会館第一ホールの機能上の課題を整理し、どのように新たな要求性能を設定したか、経過を追って合理的、論理的、また具体的にお示しください。
- ② 上記において、第一ホールに対する新たな要求性能が京都会館全体の建築的、文化的価値のインテグリティを継承・担保し得る範囲内のものであるかの検証をどのように行ったか、また、その要求性能の妥当性等についてどのように検討したか、お示しください。
- ③ 第一ホール全面解体除去後においても、実際に京都会館全体として建築的、文化的価値が継承され、そのインテグリティが担保され得ることが証明できるか、お示しください。
- ④ 第一ホールを全面解体除去するとした場合、建築の当初の部分や材料の保存の側面も含めどのように建物価値を継承し得るのか、お示しください。
- ⑤ 以上の点を踏まえ、京都会館の建築的、文化的価値継承の観点から、第一ホール再建後において、どのようにそのインテグリティを確保するのか、具体的方策を示してください。また、その準備のために解体前及び解体中にどのような調査や作業等を行うのか、スケジュールも含めて具体的にお示しください。

以上